

村落祭祀の機能と構造

滋賀県草津市下笠町の頭屋行事を中心に

宇野日出生

The Structure and Function of Village Festivals: The Case of Toya Events at Shinogasa-cho in Kusatsu City, Shiga Prefecture

はじめに

① 下笠町の景観

② 村の組織

③ 村の行事

まとめ

付録

【論文要旨】

滋賀県草津市下笠町は、琵琶湖の南端東部寄りに位置する集落で、肥沃な平野部に開けた地域である。ここでは中世において発達した村落が確認できるとともに、頭屋行事を通して祭祀と神饌の関係を位置づけることが重要なポイントであることが判明した。

下笠の頭屋行事は、老杉神社を含んだ八か村の座から構成されている。この八か村は、現在の下笠町内の行政区域(十一地区)とは、全く一致しない。旧八か村(八地区)は、殿村・細男村・王之村・獅子村・銚之村・天王村・十禅師村・今村を指し、この村の順列に則して、毎年一か村が頭屋行事をつとめるのである。各村は血縁によって構成され、日常生活や祭祀の基本単位を形成した。「神事記録」によると、十四世紀後半から十六世紀前半におけるの祭祀行事が確認できる。特に上記の宮座八か村の存在形態は極めて重要な役割を成しているが、現行の老杉神社の諸祭祀中において、

八か村が関わりを有する祭祀は、かかる頭屋行事のみである。

なおこの祭祀行事にとって、もうひとつ重要な部分は、頭屋で調製された特殊神饌の調進献供にあった。また祭り本目における神社での献饌や撤饌の儀礼中には、祭祀組織の古態を残していた。本稿では以上の視点のもとに、頭屋行事を通して村落祭祀の機能やその構造について究明するものである。